

平成 29 年度 山村学園短期大学事業報告

目次

I 平成 29 年度事業の実施状況	
1 保育学科単科短大として3年目の現状	P 2
2 建学の精神、教育目標、三つのポリシー	P 2
3 18歳人口	P 3
4 学生募集	P 3
5 求人・就職	P 5
6 本学への評価	
(1) 就職先からの評価	P 6
(2) 授業への評価	P 9
(3) 実習での評価	P 10
7 財務状況予測	P 11
8 全体図 数値目標等達成度一覧表	P 13

I. 平成 29 年度事業の実施状況

1. 保育学科単科短大として 3 年目を終える現状

単科になることによって、財務は改善される方向にあったが、平成 30 年度入試において入学予定者が 71 名となり、予想していたレベルを下回ったため、財務状況はさらに厳しくなった。

教員間での教育目的や教育方法の共有に関しては、カリキュラムの検討や学習成果の検討、学生に対する細かな指導の充実が図られている。しかしながら、平成 29 年度の 1 年生の退学者は 7 名に上った。さらなる情報共有と迅速な対応についての検討が必要である。

就職に関しては、求人数が多く、高い就職率を維持している。この傾向は向後数年間は続くであろうと思われる。

2. 建学の精神、教育目標、三つのポリシー

山村学園短期大学 教育方針

○校訓（建学の精神の流れをくむシンボリックなもの）

- 「質実」 素直な気持ちを持ち、感謝の気持ちを持って働く人間を育成する。
- 「英知」 高い知性と優れた創造力を発揮できる人間を育成する。
- 「愛敬」 人を慈しみ、尊敬する心を持った人間を育成する。

○寄附行為

「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、社会の発展に有為な人材を育成することを目的とする。」

○短大学則第 1 条第 2 項

「本学は、学校教育法に基づき、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かな人材を育成し、もって広く社会の発展に寄与することを目的とする。」

○短大学則第 1 条第 3 項

「保育学科においては、高い保育の専門性と豊かな人間性を兼ね備え、地域社会に貢献できる骨太な幼稚園教諭・保育士の養成と、その基礎となる教育研究の推進を目的とする。」

○アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

山村学園短期大学は、「質実」、「英知」、「愛敬」を校訓として、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かな人材を育成し、もって広く社会の発展に寄与することを目的としています。

保育学科

- 1 幼児教育・保育の学習に必要な十分な基礎学力と、笑顔、挨拶、言葉づかいなど基本的な対人関係能力を備えている。
- 2 音楽、造形、言語・身体などの表現技術などに親しんでいる、あるいはこれらを今後学ぶにふさわしい豊かな感性を持っている。
- 3 人や動植物、自然に対する深い愛情を持つとともに、幼児教育・保育に情熱と使命感を持って取り組むことができる。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

1. 高い保育の専門性を涵養するため、保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状が二年間で取得できる編成とする。
2. 保育の内容や実習準備に関する科目について、少人数編成で効果的に学習できる授業内容にする。
3. 自信や共感性を涵養するため、体験型の学習をふんだんに取り入れた科目を配置する。
4. 校地内の自然環境を活用し、保育士としての資質向上に資する科目を配置する。
5. 保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状のほか、保育者の資質向上に資する資格が取得できる科目を配置する。

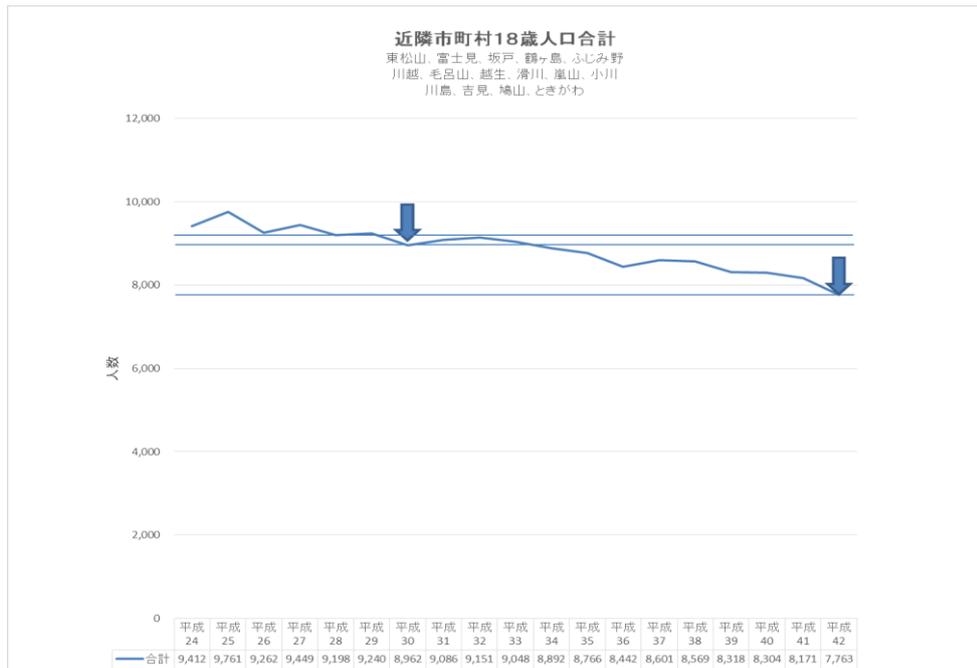
○ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

本学では、学則第 43 条（卒業）に示す所定の単位を修得し、建学の精神（質実・英知・愛敬）、学則にある短大及び保育学科の目的に則り、下記のような知識、技能、態度等を備えた学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

記

1. 社会人として必要な教養・知識
2. 保育者としての専門的知識・技能
3. 社会人として必要なマナー・常識・態度
4. 人や自然を深く愛し、慈しむ態度
5. 保育への情熱と使命感を持って社会に貢献しようとする積極的な態度

3. 18歳人口



平成 30 年（2018 年）と平成 42 年（2030 年）を比較すると 13.0%の減少。単純に 100 名定員に減少率を換算すると約 13 名の減。ただし、この図は人口流入の予測値は反映されていない数値で、単純に年齢別の人口を拾った数値である。

4. 学生募集

入学者数推移（人）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
人数	94	87	74	71

左の表は、過去 3 年間の保育学科入学者数を示したものである。一貫して減少

傾向にある。

	h22	h23	h24	h25	h26	h27	h28	h29	H30	合計	平均
東松山	9	16	18	20	12	12	6	10	5	108	12.0
川越市	11	8	13	9	18	10	10	10	6	95	10.6
坂戸	4	10	11	10	10	6	10	5	9	75	8.3
鶴ヶ島	5	9	5	4	3	3	6	3	5	43	4.8
毛呂山	4	6	4	4	3	4	3	2	5	35	3.9
小川町	3	4	3	1	4	6	5	3	0	29	3.2
ふじみ野市	2	4	1	3	8	4	3	4	4	33	3.7
日高市	1	1	8	2	3	6	1	1	1	24	2.7
吉見町	0	4	7	4	1	2	3	2	3	26	2.9
秩父市	2	1	2	4	0	7	2	2	0	20	2.2
寄居町	1	4	1	0	4	2	2	5	3	22	2.4
鳩山町	0	3	2	4	2	1	3	3	1	19	2.1
深谷	1	3	3	2	2	2	2	1	1	17	1.9
さいたま市	1	3	1	3	4	1	1	0	0	14	1.6
川島	3	1	0	1	2	3	3	1	2	16	1.8
滑川	1	2	2	2	3	2	1	1	0	14	1.6
富士見市	1	2	0	2	1	0	5	0	2	13	1.4
狭山市	1	1	0	5	1	0	2	1	0	11	1.2
嵐山	1	1	3	1	2	0	1	2	2	13	1.4
越生	2	1	1	2	1	2	1	0	0	10	1.1
ときがわ	4	0	1	2	2	0	0	1	1	11	1.2
熊谷	1	3	0	2	0	2	0	1	1	10	1.1
秩父郡	0	1	2	0	1	1	0	3	0	8	0.9
鴻巣市	2	1	0	1	1	0	2	0	0	7	0.8
所沢市	2	2	0	0	1	0	1	1	1	8	0.9
行田市	1	0	1	2	2	0	0	1	1	8	0.9
飯能市	1	0	0	0	1	1	1	0	1	5	0.6
北本市	0	1	1	1	1	0	0	0	0	4	0.4
上尾市	0	0	0	0	0	2	0	2	0	4	0.4
入間市	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3	0.3
桶川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	64	92	90	92	93	81	74	65	54	705	

上表は、過去5年間の主な市町村別入学者人数（職訓生7名除く）

東松山、川越、坂戸、鶴ヶ島などが多い。鳩山はベスト10圏外となった。東松山からの入学者数は回復したが、特定の地域に限らず、一般的に人数が減っている。

高校名	H26 新入生	H27 新入生	H28 新入生	H29 新入生	H30 新入生
山村国際高校	9	4	12	10	8
小川高校	4	6	6	4	5
松山女子高校	2	2	1	1	5
滑川総合高校	4	8	5	5	4
川越西高校	7	5	6	3	4
武蔵越生	0	2	0	3	4
秋草学園高校	2	1	2	2	3
東京成徳大学深谷高校	3	4	3	1	3
鶴ヶ島清風高校	10	4	2	3	2
寄居城北	0	6	1	3	2
新座柳瀬	1	2	0	1	2
川越総合高校	3	5	1	0	2
筑波大学付属坂戸高校	3	0	1	0	2
鳩山高校	4	2	3	3	1
山村学園高校	2	3	2	3	1
坂戸西高校	4	6	8	2	1
埼玉平成高校	2	0	1	2	1
富士見高校	2	0	1	2	1
志木高校	1	0	5	2	1
川越初雁高校	1	0	0	1	1
豊岡	0	2	0	0	1
ふじみ野	1	1	0	0	1
狭山清陵高校	1	0	0	0	1
市立川越	0	1	0	0	1
飯能南	0	0	0	0	1
鴻巣女子高校	1	1	2	6	0
県立越生	0	1	0	2	0
伊奈総合学園高校	1	1	0	1	0
誠和福祉高校	1	0	0	1	0
日高高校	3	2	1	0	0
飯能高校	2	4	0	0	0
本庄第一	0	3	1	0	0
朝霞西	0	0	1	0	0
正智深谷高校	1	1	0	0	0
大宮武蔵野高校	1	1	0	0	0
朝霞高校	1	0	0	0	0
西武台	1	0	0	0	0
深谷商業高校	1	0	0	0	0
狭山経済	0	1	0	0	0

上の表は、過去5年間の主な高校別入学者数である。本学の特徴として、ひとつの高校から複数名が入学する傾向がある。一方で本学の近隣の市町村から入学者数が全体的に減少し、やや周辺の市町村からの入学者が0になっている傾向がある。平成31年度に向けては、学園内の高校との連携を強化し、もう一度近隣高校へのアプローチを見直す必要がある。あわせて、川越、ふじみ野市、富士見市、朝霞市の高校への募集活動を強化していくことにする。

資料請求数:オープンキャンパス参加者数:入学者数

	H25	H25 割合	H26	H26 割合	H27	H27 割合	H28	H28 割合	H29	H29 割合
資料請求数	1262	100%	1196	100%	920	100%	1006	100%	943	100%
参加者人数(延べ数)	556	44%	531	44%	463	50%	364	36%	277	29%
参加者人数(1、2、3年生の実質数)	304	24%	294	25%	254	28%	239	24%	179	19%
参加者人数(3年生のみの実質数)	209	17%	198	17%	160	17%	141	14%	125	13%
次年度志願者数	107	8%	102	9%	89	10%	74	7.4%	64	6.7%

上の表は、平成25年度からのオープンキャンパス(年に10回前後)の参加状況と次年度志願者数をまとめたものである。これまでは、資料請求者数の約1割が志願する傾向にあったが、その割合は年々小さくなっており、平成29年度は6.7%となった。3年生の実質的参加人数も減少傾向にある。

その一方でオープンキャンパスに参加した者のうち志願する割合は高く、オープンキャンパスに参加してもらうことが入学者数を増やすポイントになる。今後は、ホームページ内のランディングページの作成、イメージ動画の作成、ネットワーク広告の研究やスマートフォンへの対応動画配信などを充実し、オープンキャンパスへの動員数を増やすこと第一の目的とする。

5. 求人・就職

H29			
	県内	県外	合計
保育所	229	299	528
幼稚園	197	87	284
施設	51	45	96
h28			
	県内	県外	合計
保育所	266	350	616
幼稚園	176	82	258
施設	51	45	96
H27			
	県内	県外	合計
保育所	296	347	643
幼稚園	164	76	240
施設	46	40	86
H26			
	県内	県外	合計
保育所	214	263	477
幼稚園	162	56	218
施設	48	56	104
H25			
	県内	県外	合計
保育所	229	251	480
幼稚園	148	56	204
施設	30	39	69

左の表は、平成25年度からの求人票数の推移をまとめたものである。平成29年度の求人票数を見ると保育所、幼稚園、施設それぞれについてかなりの数に及ぶのがわかる。県内の保育所からの求人票数は昨年よりも減少したものの、県内県外の保育者に対するニーズは高いと言える。

昨今の保育者不足から、保育所、幼稚園の求人のニーズは依然高いと言える。4月勤務の求人募集について3月になった今でも問い合わせがある。

なお、求人票数とは、求人票の数であり、求人数ではない。実際の求人数は求人票数の数倍になると思われる。

6. 本学への評価

1 出勤状況				
年度	25	26	27	28
(1)たいへんよい	67.9	70.5	78.3	76.5
(2)ふつう	32.1	19.7	14.5	19.6
(3)努力が必要	0	4.9	5.8	2.0

早めに出勤しほとんど休まず体調管理ができています。

2 勤務態度				
年度	25	26	27	28
(1)たいへんよい	55.4	63.9	63.8	68.6
(2)ふつう	37.5	29.5	31.9	29.4
(3)努力が必要	7.1	1.6	2.9	0.0

落ちていた物は拾う、クラス以外の物も片づける、室内の壊れた物を直す、窓を開けるなど気づいて行動していけるとさらによい。提出期限を守れるように。

3 幼児(施設:利用者)への関わり方				
年度	25	26	27	28
(1)たいへんよい	41.1	45.9	49.3	58.8
(2)ふつう	46.4	45.9	40.6	39.2
(3)努力が必要	12.5	4.9	8.7	0.0

全園児の前に断っても堂々と話せま

4 環境構成力(施設等では環境整備、安全・安心への配慮)				
年度	25	26	27	28
(1)たいへんよい	19.6	27.9	30.4	43.1
(2)ふつう	75	60.7	58	52.9
(3)努力が必要	7.1	6.6	10.1	0.0

任された仕事を行うために時間を見つけ周囲と確認を

5 保護者への関わり方(利用者の家族への関わり方)				
年度	25	26	27	28
(1)たいへんよい	19.6	36.1	34.8	35.3
(2)ふつう	66.1	50.8	52.2	49.0
(3)努力が必要	10.7	6.6	11.6	7.8

真摯に取り組む姿
先輩の手本を見て対応してもらおう指導している。

6 他の職員との協調性				
年度	25	26	27	28
(1)たいへんよい	44.6	49.2	59.4	62.7
(2)ふつう	44.6	44.3	27.5	33.3
(3)努力が必要	10.7	1.6	10.1	2.0

とても素直で任されたことは最後まで丁寧に行えます。
笑顔が多く職員から好印象・・・と聞いています。失敗もきちんと伝達してくれます。

(1) 就職先からの評価

上のグラフは、就職一年目の卒業生に対する就職先の園長の評価である。全体的に昨年以上にいい評価を得ている。

就職先での勤務状況調査(保育学科 平成25～28年度卒業生)

山村学園短期大学 キャリア支援センター 平成30年3月22日

回収率	年度	25	26	27	28
	卒業生数	89	95	93	95
	幼・保・施設就職数(A)	83	80	87	93
	回答数(B)	?	29	25	33
	回答率(B/A)	?	36.3	28.7	35.5

職場には毎日元気に通っていますか。

年度	25	26	27	28
① はい、とても	43.3	58.6	42.3	48.5
② ふつう	33.3	27.6	23.1	24.2
③ ちょっと疲れている	20	13.8	23.1	24.2
④ その他	3.3	0	7.7	3.0

保育の仕事は楽しいですか。

年度	25	26	27	28
① はい、とても	36.7	69	42.3	51.5
② ふつう	46.7	27.6	34.6	27.3
③ ちょっと疲れている	13.3	3.4	19.2	18.2
④ その他	3.3	0	0	3.0

職場の同僚の皆さんとの人間関係はどうですか。

年度	25	26	27	28
① はい、とても	46.7	56.8	38.5	39.4
② ふつう	46.7	31	46.2	54.5
③ ちょっと疲れている	6.7	6.9	11.5	3.0
④ その他	0	0	0	3.0

上の図は、卒業生自身が自分の状況について質問したアンケートへの回答である。すべての項目、「元気に通っている」、「保育の仕事は楽しいですか」、「職場の同僚のみなさんとの人間関係はどうですか。」について「はい、とても」の数値が前年度よりも上回っている。

また、「ちょっと疲れている」が前年度と同程度になっている。前述の施設長からのアンケート回答内容では非常に評価が高かっただけに、卒業生が短大を訪れることがあれば、フォローしていくのがよい。

今、保育の仕事をするうえで、学生時代にもっと学んでおけばよかったと思うことがありますか。

年度	25.	26.	27.	28.
手遊び		7	7	7
ピアノ		9	6	9
パネルシアター、ペープサート製作		4	2	2
いろいろな遊び		4	2	3
壁面製作		1		2
書類の書き方、日案・週案・月案・便り		2	5	6
小児保健		4	1	3
障がいのある子とのかかわり方		3	4	2
けがの対応		2	1	2
絵本の読み聞かせ		3		
保護者対応		2	5	2
連絡帳の書き方		2	3	3
言葉がけ		1	2	
子どもの歌		1		
コミュニケーション力		2		
			パソコン	1
			発達	4

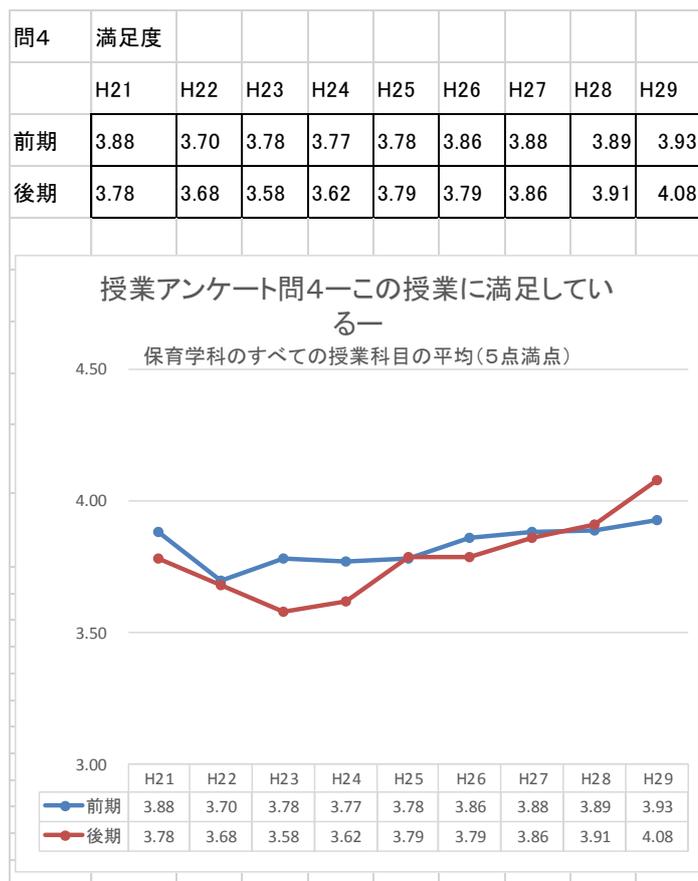
その他（今、職場で努力していること、仕事上の悩みなどを自由にお書き下さい。）

28年度の記述）

- ①保護者対応、上司との人間関係、トラブルのある子の対応、イヤイヤ期の対応、静・動の遊びを考
えること。
- ②子どもに楽器を教える。
- ③すらすら連絡帳、日誌、月案などの書き物が書けず苦労している。保護者の人がいろんな人がいて
大変。日々忙しくてついていだけで精一杯。
- ④2人担任のため日々学んで何事も前向きに子どもと成長できるようにしています。
- ⑤ピアノに苦労している。レパートリーがもっとあれば良かった。就職してからピアノ教室に行こうとして
いる。
- ⑥リーダーが苦手なので得意になるように考えて行動するようにしている。サブで入っている先生方に
指示がうまくできない。
- ⑦毎日30分ピアノを行うこと。週末はエプロンシアターやパネルシアター、壁面製作を行うこと。
- ⑧子どもたちが集中したくなる保育技術を先生方から学んでいます。先生方から信頼してもらえるよう
でも一番に動いて「やります」というようにしています。
- ⑨楽しいけど疲労感。疲労感多いけど楽しいです。
- ⑩パソコンができない。調理の先生が苦手。残業代がましい。完全週休2日制になってほしい。
- ⑪プール・水遊びが始まり一日の流れをしっかりと把握しながら着替えや移動がスムーズに行えるよう頑
張っています。
- ⑫同僚(同期)がいないこと。実習で反省したことを繰り返してしまった。
- ⑬職場内での人間関係が複雑、給料が少ない。
- ⑭連絡会の報告の仕方について、支援方法について、状況をよく見ること。
- ⑮学生に戻りたいです。先生方お仕事頑張ってください。

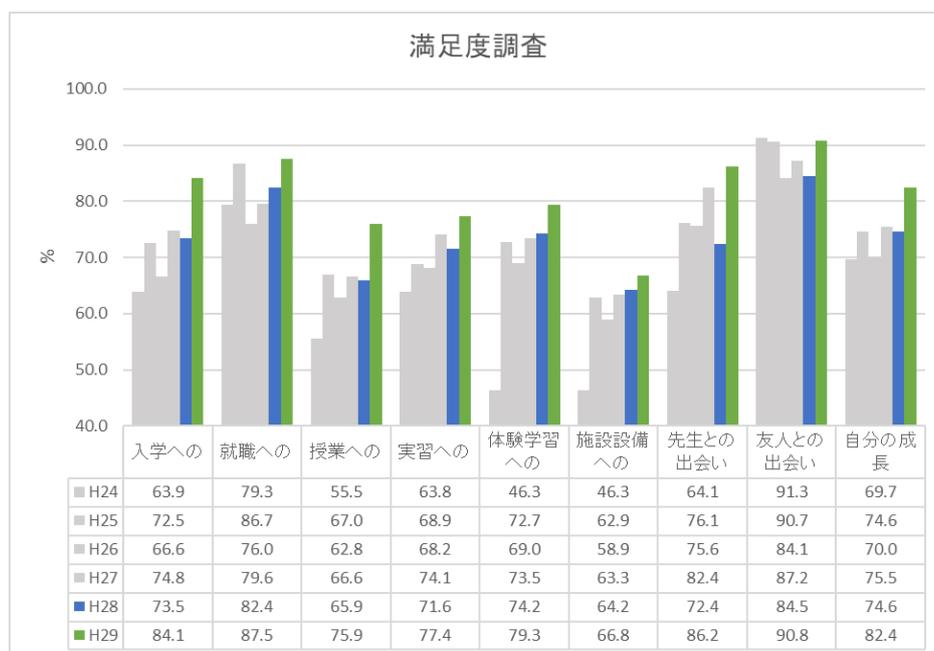
自由記述欄からは、手遊び、ピアノ、製作物、書類の書き方など保育技術について、もっと勉強しておけばよかったという回答が多かった。

(2) 授業への評価



左のグラフは、保育学科のすべての授業に対して、学生が5点満点で評価する満足度の調査結果の平均である。平成23年、平成24年と満足度が低い年があったが、平成25年から評価が上がり、平成28年は過去最高値を記録した。

(3) 学生満足度調査

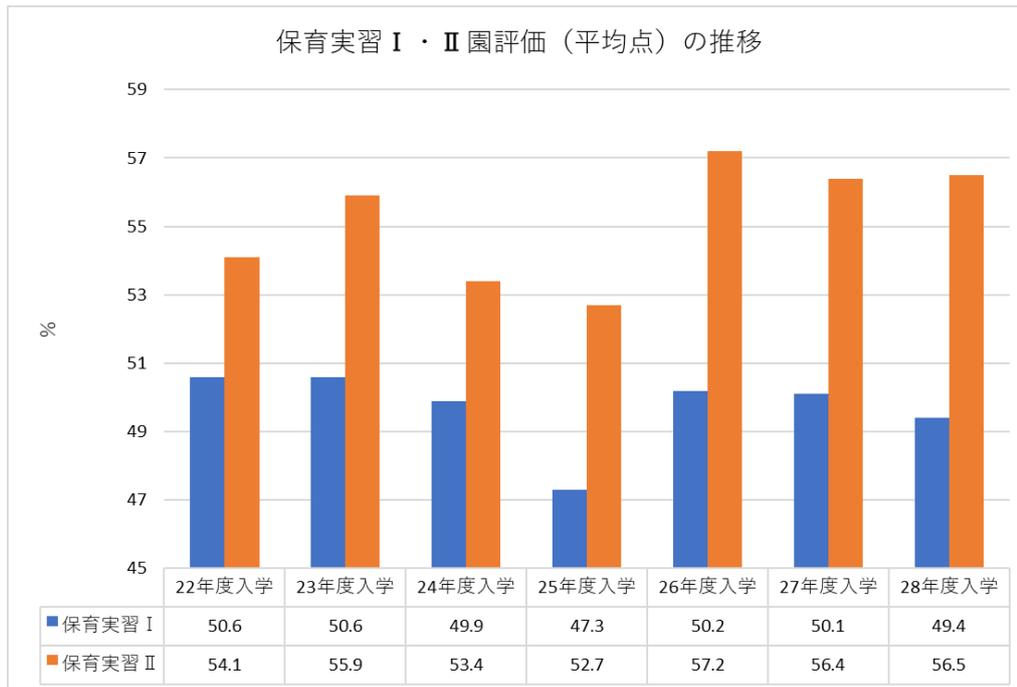


左のグラフは、短大全体について卒業生に対して行った満足度調査の結果である。全般的に高い満足度であると言える。特に「友人との出会い」、「自分の成長」、「就職」に関

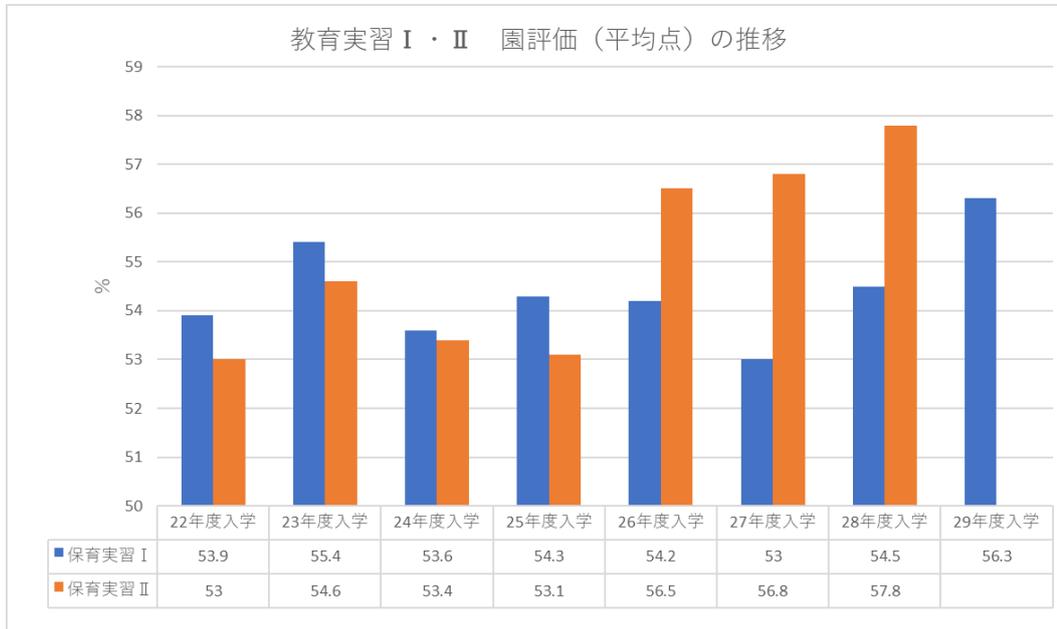
して90%前後と非常に高い満足度である。

一方、「施設設備」、「授業」に関する満足度は相対的に低いものの緩やかに上昇傾向にある。

(4) 実習での評価



上の表は、保育実習（1年生時に保育実習Ⅰ、2年生時に保育実習Ⅱを実施）に対する、園から学生への評価点の平均値を学年ごとに示したものである。評価項目の主な内容は、実習態度、保育者としての資質、指導力などである。平成23年度をピークに徐々に低くなってきていたが、平成26年度生以降については、安定した評価となっている。



上の表は、教育実習Ⅰ・Ⅱに対する園からの学生への評価点の平均値を学年ごとにまとめたものである。平成26年度生の教育実習Ⅱの点数が飛躍的に高くなり、平成27年度以降についても高いポイントを維持している。教育実習Ⅰについては年々評価が高くなっており、授業、指導の改善の成果が出ている。

7. 財務状況予測

資金収支計算書より	1年 2年	65+職訓7 65	80+職訓8 65+職訓7	80+職訓8 80+職訓8	80+職訓8 80+職訓8	80+職訓8 80+職訓8	備考
(収入の部)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
学生生徒等納付金収入	177,890	157,300	177,700	193,600	193,600	193,600	
手数料収入	2,700	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	
寄付金収入	0		0	0	500	500	
補助金収入	22,210	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	
付随事業・収益事業収入	7,210	14,770	23,410	24,490	24,490	24,490	
資産売却収入	0	0	0	0	0	0	
雑収入	4,600	5,900	4,600	4,600	4,600	4,600	
借入金等収入	0	0	0	0	0	0	
計	214,610	210,770	238,510	255,490	255,990	255,990	A

(支出の部)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	備考
人件費支出	165,580	165,000	165,000	165,000	165,000	165,000	
退職金支出	0	0	0	0	0	0	
教育研究経費支出	27,000	26,000	26,000	26,000	26,000	26,000	
修繕費支出							
事業内容② 空調 教育棟1階							
事業内容② 空調 教育棟2階							
事業内容⑤ 音楽教室棟							
事業内容⑥ トイレ改修 教育棟中央1階							
事業内容⑥ トイレ改修 教育棟中央2階							
事業内容⑥ トイレ改修 教育棟中央3階							
事業内容⑦ 教育棟、体育館屋根塗装 (H28年は体育館屋根のみ)							
事業内容⑧ 芙蓉館屋根の塗装							
事業内容⑨ 体育館屋根支柱塗装							
事業内容⑩ 教育棟・体育館壁面浮き補修 窓枠防水工事							
その他の修繕費							
奨学費支出	2,250	2,400	2,400	2,400	2,100	2,100	
その他							
管理経費支出	28,160	29,000	29,000	29,000	29,000	29,000	
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	0	
借入金等返済支出	0	0	0	0	0	0	
施設関係支出	0	0	0	0			
設備関係支出	1,460	2,400	2,400	2,400	2,500	2,500	
事業内容① 受水槽・浄化槽 H29は受水槽 H32は浄化槽							
事業内容③ 本館ボイラーの更新							
事業内容④ 県道副都庁工事							
その他							
(*法人本部負担金分)	7,520	7,520	7,520	7,520	9,500	9,500	
(*割増退職金負担分例年分)							
支出の部計	229,720	229,920	229,920	229,920	232,000	232,000	
収支差額	-15,110	-19,150	8,590	25,570	23,990	23,990	
(*割増退職金負担分キャリコミ分)							
資金の積み立て分	0	0	0	0	0	0	
・減価償却引当特定預金	0	0	0	0	0	0	
計	229,720	229,920	229,920	229,920	232,000	232,000	B
収支差額(1)	-15,110	-19,150	8,590	25,570	23,990	23,990	C=(A-B)

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	備考
次年度繰越金予測	146,726	127,576	136,166	161,736	185,726	209,716	
積立資金累計	0	0	0	0	0	0	

上の表は、平成29年度の財務状況をもとに、平成34年までの財務を予測したものである。平成29年度は、訳900万円の経費節減策を実施したが、学納金、補助金の減少により財務状況はさらに厳しくなった。

(1) 条件設定

- ・ 平成 27 年度からは、キャリア コミュニケーション学科がなくなり、保育学科単科となる。
- ・ 平成 31 年以降、入学者は 88 名を想定。
- ・ 補助金は、3,000 万円を想定。うち 1,000 万円は私立大学等改革総合支援事業を想定している。
- ・ 人件費は、教員数 11 名、現状維持で想定。11 名は、文科省が定める最少人数。
- ・ 退職金の収入、支出に関しては数字から除外。
- ・ **職業訓練生を受け入れる。10 名の枠で募集をして 7～8 名の入学者を想定。**
- ・ 高校卒+職業訓練生の合計が 75～80 名であれば、収支が均衡する。ただし、減価償却特定引当金や将来に向けての資金の積み立てはできない。

(2) 人件費

人件費は、専任教員 11 名を想定している。これは文科省が定めるこの規模の保育学科の最少人数である。平成 29 年度の一時金については、3.1 か月から 3.0 か月とし、29 年度については、非常勤教職員の一コマあたりの手当を 12,000 円から 11,000 円とした。

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 25 年と
		キャリアコミュニケーション学科募集停止			平成 30 年	平成 28 年の差
専任教員数	17	16	11	11	11	-6
非常勤教員数	45	33	24	22	20	-25
専任事務職員数	7	6	6	6	6	-1
非常勤事務職員数	2	2	3	2	2	± 0

(3) 施設・設備更新

施設設備の更新については、一時停止し、平成 30 年度は、財務状況の推移を見る。必要な修繕に関しては行う。

(4) 次年度繰越金

平成 30 年度の次年度繰越金は減少する。高校卒+職業訓練生の合計が 75～80 名であれば、収支が均衡する。ただし、減価償却引当特定預金や将来に向けての資金の積み立てはできない。

(5) 積立金

積立金については、平成 30 年度については行わない。

(6) その他の経費節減

なお、その他の経費節減については、平成 29 年度は合計約 900 万円の経費節減計画を実行した。平成 30 年度はさらに 210 万円の経費節減を実行する。

8. 全体図 数値目標等達成度一覧表

	平成 29 年度	結果
学生募集 ・目標値	- 入学者の数 100 名を基準。 - 資料請求数 1000、志願者数 105 名が目標。少なくとも入学者数 90 名を目標。	- 71 名の入学者 × - 資料請求数 943 ○ - 志願者数 83 ×
学生募集方法 ・継続実施	- 募集強化策を策定し、目標値を明確にする。 - 高校訪問回数を増やし、進路指導の先生方の要望に適切に対応することにより入学者を確保する。 - その地区の求人票数などの資料持参。地域のニーズが高く、本学にも求人票が多数来ていることを知らせる。○ - ホームページデザインの更新 - 斬新なデザインのパンフレット早期完成、早期配布（3月中旬）。 - 本学在学生の出身高校へ写真メッセージ付チラシを作成、配布。 - 公民館等に履修プログラムの案内を配布する。 - 満足度が高いことをPRする。 - 地域の市町村との教育包括協定に基づき、地域貢献するとともに高校生、中学生、小学生が本学に訪問する機会を増やす。	- 入学者人数が昨年を下回った。× - 高校訪問数を+1回（重点校）○ - 未実施 × - 実施 ○ - 実施 ○ - 実施 ○ - 実施 △ - 実施 ○ 高校訪問、OC - △NPO 法人聖山環境プロジェクトはとやまと地域の課題解決、研究に関する協定を締結
学生募集 ・新たな試み	- SNS をフルに活用した広報を行う。 - ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ユーチューブ、ラインでの広報を展開。 - SNS を活用した広報に関する作業部会設置。 - 学生による画像、動画の作成、PR。 - その他高校側のニーズを開拓（通信制高校などへのアプローチを強化） - 保育者に対する待遇面について、求人票から給与のデータを作成したり、各自治体等が取り組んでいる補助金制度などをまとめたりし、本学から積極的に情報発信する。 - 高校の進路担当の先生の異動の確認。 - 高校訪問の頻度を増やす。	- 実施 ○ - 出身校への写真入りチラシ○ - 実施 ○ - 未実施 × - 実施 ○ - 未実施 × - 未実施 × - 実施 ○ - 実施 ○
財協 私立大学等 改革部会支 援事業	- 900 万円の経費削減策の実施 - 「建学の精神を生かした大学教育の質向上」（教育の質的転換）と「特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり」（地域貢献）の選定を受けることにより、補助金の獲得が期待できる。（ちなみに平成 28 年度は約 900 万円獲得）全学を挙げて取り組んでいくこととする。	- 1 点差で未獲得 ×
新カリキュ ラム策定・ コンセプト の再検討	- 「教職課程の再課程認定」に対応したカリキュラムを作成する。また、再認定の申請に関する検討を行う。 - 少人数教育をいかに充実できるカリキュラム - 自然環境を保育に活かせるカリキュラム - 加保育士資格取得を卒業要件から外すことについての検討 - 資格での卒業を可とする新たなコースに関する検討。	- 実施 ○ - 実施 △ - 実施 ○ - 実施 ○ - 未実施 ×
卒業までに 身につける べき学習成 果について	- 設定された学習成果をもとに、そのチェックの仕方を確立 - カリキュラムマップ、ポートフォリオの運用定着。	- 未達成 ○ - 未達成 ×
授業の質の 向上	- 前期、後期ともに両方 4.0 以上を目標とする。	- 前期 3.93 △ - 後期 4.08 ○
少人数教育 の深化	- 学習の成果の項目のうち、「はじめで前向きな姿勢」「心身の健康を管理する姿勢」「社会人として円滑なコミュニケーションを図ろうとする姿勢」の項目の評価が上がることを目的とする。	- 未整理 ×
実習	- 保育実習Ⅰは 50 点以上、保育実習Ⅱは 55 点を基準。 - 幼稚園実習Ⅰは 54.0、幼稚園実習Ⅱは 56.0 を基準。福祉施設実習については別途検討。	- 保育 149.4 保育Ⅱ 56.5 ○ - 幼実Ⅰ 56.3 幼実Ⅱ 57.8 ○
自然を活か した 保育の実践	- Natural 保育検定基礎編合格者数について、平成 28 年入学生の合格者 70 名。平成 29 年入学者 40 名を目標。 - Natural 保育検定応用編合格者数について、平成 28 年入学生の合格者 30 名。平成 29 年入学者 15 名を目標。	- 平成 28 年入学 58 × - 平成 29 年入学 47 ○ - 平成 28 年入学 22 × - 平成 29 年入学 8 ×
生活指導	- 退学者防止。退学者 0 を目標。最高でも 4 まで。	- 退学者 7 ×
進路指導	- 就職希望者数を母数とした就職率 98%以上を目標 - 近隣の園を招いた就職会説明会の主催 - 公務員試験合格人数 3 名以上 - 就職先からのアンケートで「たいへんよい」の割合が、出勤状況 80%、 - 勤務態度 70%、 - 幼児への関わり方 50%、 - 環境構成力 30%、 - 保護者への関わり方 35%、 - 社の職員との協調性 55%を目標	- 100% ○ - 実施 ○ - 合格者 4 名 ○ - 出勤状況 76.5 △ - 勤務態度 68.6 △ - 幼児への関わり方 58.8 ○ - 環境構成力 49.1 ○ - 保護者への関わり方 35.3 ○ - 社の職員との協調性 62.7 ○
施設・設備	改修は一時的停止	未実施
学生満足度 調査	- 入学への満足度 75%、 - 就職への満足度 80%、 - 授業への満足度 70%、 - 実習への満足度 75%、 - 体験学習への満足度 75%、 - 施設設備への満足度 70%、 - 先生との出会いへの満足度 80%、 - 友人との出会い 90%、 - 自分の成長 75%を目標	- 入 学 84.1 ○ - 就 職 87.5 ○ - 授 業 75.9 ○ - 実 習 77.4 ○ - 体験学習 79.3 ○ - 施設設備 66.8 △ - 先生との出会い 86.2 ○ - 友人との出会い 90.8 ○ - 自分の成長 82.4 ○
人件費	- 教員数については最少人数で臨む。 - 事務用員についても同様。	- 教員最少人数 ○ - 事務用員最少人数 ○